

# ナタリー・デセイ

Natalie Dessay(Soprano)

リヨン生まれ。

名前のナタリーに、フランス語本来の表記のhがないのは、敬愛する米国女優ナタリー・ウッズの名になぞらえてのこと。

ボルドーに育ち、最初の夢はエトワール・ダンサーになることだったが、その後ドイツ語と演劇、声楽を学ぶ。声質はソプラノ・レジュエロ。上達が目覚ましく、通常5年にかかる声楽コースを飛び級にて1年で修了。音楽院を一等の成績で卒業したのは20歳の時。トゥールーズ・キャピトル劇場合唱団に短期間籍を置いたのち、ボルドーにもどり、ソリストとして確固たる道を歩み始める。1989年フランス国内で「新しい声コンクール」が開催され参加、2等を受賞。パリ・オペラ座アーティスト養成コースに招かれ研鑽を続ける。

1992年バステューユ・オペラにて「ホフマン物語」(オッフェンバック作)のオリンピア役で出演、演出はロマン・ポランスキー。翌年、ウィーン国立歌劇場よりまず最初のオファー。その直後1年間でこの名誉ある劇場に数回の出演という快挙を成し遂げる。1993年、リヨン国立オペラのオープンにあたって、重鎮ルイ・エルロ演出の「ホフマン物語」でもオリンピア役。2001年までの期間に、まさにこの“ミュージック・ホールにぴったりの曲目”を、じつに異なる8つのプロダクションで歌うこととなった。

1994年には、最初の専属契約をEMI Classicsとの間で締結。同年、「魔笛」の夜の女王に初挑戦。このときの指揮はウィリアム・クリスティ、演出はロバート・カーセン。“息を呑む空中ブランコのごとき2曲のアリア”と評される。続く年には、レオ・ドリーブ作曲のコミック・オペラ「ラクメ」に挑戦、魅惑的な巫女の姿を観客に披露したその直後に、いよいよミラノ・スカラ座にオリンピア役で登場。アルフレード・アリアス演出によるこの気まぐれで挑発的な機械人形は、観客の心に忘れ得ない印象を刻んだ。

1996年、ジュネーヴでアンブロワーズ・トマ作「ハムレット」でオフィーリア役。この演目では常連と言われる顔ぶれの歌手たちに加わって大健闘。パトリス・コリエ、モーシェ・ライザー演出。同年、ウィーンに再び招かれ、リヒャルト・シュトラウスの「無口な女」のアミンタ役。批評家たちから高い評価を得たのちニューヨークに飛び、同じくシュトラウス作の「アラベッラ」でフィアカーミリ役を歌い、メトロポリタン歌劇場デビュー。

世界のどこで歌っても、いかなる型にも収まらないこのソプラノに一般聴衆はは一気に心を奪われ、上演後のCDの売上げは上昇、そして批評家たちも負けずに彼女を讃え、同時期に5つの賞を受賞。「だからといって、べつに、パン屋さんでバゲットを買う私にファンが群がる、なんてことは、起きなかったわよ。」とは、本人の弁。

1997年、マルク・ミンコフスキー指揮、ローラン・ペリー演出の「地獄のオルフェ」(オッフェンバック)、ピエール・ブーレーズ指揮、ストラヴィンスキー曲「夜鳴き鶯」でパリの聴衆の期待に応え、そして翌1998年ふたたびニューヨーク、「ホフマン物語」と「ナクソス島のアリアドネ」。指揮はともにジェイムズ・レヴァイン。

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

1999年パリ、オペラ・ガルニエ宮でウィリアム・クリスティー指揮によるヘンデル「アルチーナ」で、ルネ・フレミング、スーザン・グラハムと共演。2000年に話題となったロバート・カーセン演出の「ホフマン物語」ではおなじみのオリンピア役、しかしこのときは、セクシーなバービー人形のいでたちに身を包んで聴衆を熱狂させた。

年数を重ね、レパートリーの幅を飛躍的に広げつつ、しかし、ソプラノ・レジーエロ（＝軽い）の役からは少しずつ離れ、彼女の姿は「悲劇を語る」ヒロインへと変貌してゆく。

そして2001年、ついに、15年前からの悲願であったドニゼッティ「ランメルモールのルチア」に挑戦する機会が訪れた。間を置かずにベッリーニ「夢遊病の女」、2003年には「ハムレット」（アンブロワーズ・トマ作）、象徴的な悲劇のヒロイン、オフィーリアのその一皮むけた役作りに、彼女を初めて迎えたコヴェント・ガーデンに拍手の渦が起こる。続いてバルセロナ公演。

2004年以降も、役を極める独自の方向を堅持し、シカゴで「ランメルモールのルチア」（イタリア語上演）、ジュネーヴでマスネの「マノン」初挑戦、つづいてサンタ・フェにて「夢遊病の女」。翌2005年、メトロポリタン歌劇場で「ロミオとジュリエット」（グノー作）、こちらもジュリエット役への初挑戦。

サンタ・フェでは2006年に「魔笛」パミーナのロールデビューも果たす。そのすぐ後にパリ・バステューユ・オペラに凱旋、記念すべき演目は見る者を幻想世界へ誘い込むかのような「ルチア」、指揮エヴェリーノ・ピドー、演出アンドレイ・セルバン。

2007年の幕開け、ドニゼッティの「連隊の娘」のマリー役に挑戦。演出家ローラン・ペリーの洒脱さが光るこのプロダクションはロンドンとウィーンで上演され大好評。キャストにはホアン・ディエゴ・フローレスの名前も。続くバルセロナでは、ロランド・ヴィラゾンと共に舞台に立ち、デヴィッド・マクヴィカー演出による「マノン」を熱演。この公演の様子はVirgin Classics発売のDVDで見ることができる。

2007年9月24日、彼女の「ランメルモールのルチア」はニューヨーク・メトロポリタン・オペラのシーズンオープニングを飾り、また、同地リンカーン・センターとタイムズ・スクエアの2箇所で大スクリーンにて放映される。

つづく2008年にもMETは彼女を歓迎、役どころは「ルチア」再演と「連隊の娘」であった。

これは、METライブ・ビューイングで、世界各地の映画館で放映されたもの。2008年にはシカゴ・オペラで再びマクヴィカー版の「マノン」を演じ、ヨナス・カウフマンとともに観客の絶大なる支持を得る。

2009年1月、アン・デア・ウィーン劇場にて、初めての「ペレアスとメリザンド」（ドビュッシー作）。ローラン・ペリー演出による本公演は、同年9月にDVD発売される。この年の夏ついに機が熟し、「椿姫」がレパートリーに加わるが、この記念すべき初ヴィオレッタのための場となったのはサンタ・フェ。当地ではこれはまさに「事件」であった！

同年秋、彼女の再々来を首を長くして待っていたパリの聴衆の前に、ブッチーニ「ラ・ボエーム」のムゼッタ役で姿を見せた。これも初挑戦の役である。つづいてウィーンで2010年新製作「夢遊病の女」、2011年パリでヘンデルの「ジュリオ・チェーザレ」（エマニュエル・ハイム指揮、ローラン・ペリー演出）のクレオパトラ役にもトライし、夏のエクサン・プロヴァンス音楽祭の新製作「椿姫」まで快走を続けた。

受賞歴として特筆すべきは、2007年2月コヴェント・ガーデンでの彼女の「連隊の娘」の演技に対して、2008年度のローレンス・オリヴィエ賞（ロンドンで優れた演劇作品に対して与えられる賞）

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

**JAPAN ARTS CORPORATION**

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

がある。

2006年CDおよびDVDにて「ある声の奇跡 -le Miracle d' une voix-」を発売。CDはディスク・ドール賞を2度受賞し、DVDはプラチナ・ディスクを獲得。まさに記録である。

最新のCDはヘンデル作「ジュリオ・チェーザレ」からエジプト王妃のアリアを集めた「クレオパトラ」で、エマニュエル・アイム指揮、バロックアンサンブル・コンセール・ダストレ演奏。

舞台上での素晴らしい演技を映像に記録したDVDとして、「連隊の娘」「ペレアスとメリザンド」、「ハムレット」、ツェルビネッタ役がみごとな「ナクソス島のアリアドネ」など、多数発売されている。現在の専属契約会社はヴァージン・クラシックスである。

\*プロフィールの一部を使用する場合、日数が経過している場合は、ジャパン・アーツの校正チェックをお受け頂きますようお願い申し上げます。

## Natalie Dessay, soprano

From Paris to Vienna, Natalie Dessay sang Mozart (König in der Nacht, Konstanze, Concert's Arias...), Richard Strauss (Zerbinetta in Ariadne auf Naxos, Sophie in Rosenkavalier, Aminta in Die Schweigsame Frau), but it is in French repertoire she made her "debut" with Olympia in Opera de Paris and Lakmé in Opéra Comique.

Natalie Dessay sang Stravinsky's Rossignol in Théâtre du Châtelet and in Berlin, Ophélie (Hamlet) in Grand Théâtre of Geneva, Capitole de Toulouse, Théâtre du Châtelet, Covent Garden et Liceu of Barcelona, Zerbinetta (Ariadne auf Naxos) in Metropolitan Opera of New-York and Opera de Paris.

Natalie Dessay began to sing Bel Canto with Amina (La Sonnambula) in Opéra de Lausanne, Opéra de Bordeaux, Scala of Milano and Santa Fe, Lucie de Lammermoor (the French version) in Opéra de Lyon. She sang Lucia (Italian version) in Chicago Opera, role she has to sing in the Metropolitan Opera of New-York.

She has performed Massenet's Manon in Grand Théâtre of Geneva, Mélisande (Pelléas et Mélisande) in Glasgow, Juliette (Roméo et Juliette de Gounod) in the Met, Pamina (Zauberflöte) in Santa Fe, Lucia (Lucia di lammermoor) at The Opera de Paris, and Amina (Sonnambula) at the Opéra de Lyon

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

**JAPAN ARTS CORPORATION**

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

and the Théâtre des Champs Elysées.

More recently, she has sung Marie (La Fille du Régiment) at the Covent Garden Royal Opera House, in Vienna and at the Met, Lucia at the Metropolitan opera under James Levine's baton, Manon at the Liceu of Barcelona and in San Francisco.

Plans include, Manon's part in Chicago Opera. She will sing Mélisande in Vienna (Theater an de Wien) and in Japan, Amina, Ophelie and Lucia in the Metropolitan Opera, Traviata in Santa Fé and the Festival d'Aix-en-Provence, Musetta (La Bohème), Annina, Cleopatra at the Opéra de Paris, Marie (La Fille du Régiment) at the Covent Garden Royal Opera House...

Natalie Dessay also gives numerous concerts with conductors (Japan Canada, France...)

2015/16 season only. Please contact Japan Arts if you wish to edit this biography.